



正しいかたちは正しい心を生み出す母である

「正しいかたちは正しい心を生み出す母である」

これは、かつて奈良にある薬師寺というお寺の第124世管主をされていた高田好胤(たかだこういん)師(1924年～1998年)の言葉です。好胤師は「話のおもしろいお坊さん」として有名で名前を聞かれた人も多いことでしょう。

今から四十数年前のことでしょうか。当時からすでに修学旅行で奈良・京都を訪れる中学生も多く、薬師寺も法隆寺と並んで訪れてみたいと人気のあるお寺でした。

その薬師寺を修学旅行で訪れた中学生や高校生に対して、好胤師はお説教をされていたのですが、そのお説教の言葉として「正しいかたちは正しい心を生み出す母である」ということを言われたのです。

私は当時、中学校の教員をしていました。全国的に校内暴力で多くの中学校が荒れており、勤務していた中学校も生徒指導に苦心していました。いわゆるツッパリ生徒の服装の特徴はだぶだぶの学ランに長いスカート(時代が進むとミニスカートにルーズソックス)で、現在の中学生が着ている学生服とは明らかに異なるものです。そのように、人とは違う身なりをすることで自分の力を誇示するという風潮でした。そういう中学生に対して、好胤師は「正しいかたちは正しい心を生み出す母である」と説いたのです。

私は、この言葉を聞き「そうだ、これだ」という思いを強くして、以来、生徒たちに人として正しく生きてほしいという思いを伝えるときに、この好胤師の言葉を紹介して「どういう意味なんだろうか」と一緒に考えました。それが、学級経営や学年経営につながり、校長としての学校経営につながっていったのではないかと思います。

例えば言葉遣い。言葉にも正しいかたち、正しい遣いかたがあります。「ありがとう」「うれしいよ」「ごめんね」など、相手を思いやる言葉を遣えるこどもはやさしい心根をもち、思いやりのある人に育ちます。反対に、「バカ」「死ね」「うざい」などという言葉が平気で遣うこどもは、人を傷つけ、いじめをしてもそれが悪いことだと気がつかないこどもに育ちます。だからこそ、学校でも「正しい言葉遣いで正しい心を生み出すことの大切さ」を指導していきたいものです。

また、小学校の校長時代には「下足箱での正しい靴の入れ方」を全校集会などで児童に呼びかけました。「かかとをそろえて靴箱の端にきちんとそろえて入れること」これが「正しいかたち」であり、もし、全校の児童にこのことができていたら「心が正しく育っている」ことだと話しました。私は毎朝、児童が登校した後、朝の学活時に下足箱を見回っていましたが、時々、教室にいるこどもたちが玄関に降りてきて靴のかかとを直しに来ました。きっと、担任が呼びかけてくれたのでしょう。また、家庭との連携も大切だと考えて、学校だよりでも、前もって〇日の全校朝会で児童に「正しいかたちは正しい心を生み出す母である」という言葉を紹介するので、「今日、全校朝会で校長先生はどんな話をしたかね」と聞いて、そして親としての思いを付け加えてこの言葉の意味を親子で語り合ってもらいたいとお願ひもしました。「正しいかたちは正しい心を生み出す母である」これから大人になっていくこどもたちには是非かみしめてほしい言葉です。